

第8回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和4年11月28日（月）

開議 13時 36分

閉議 14時 27分

全員協議会室

【委員】 西田委員長、上野副委員長
村本委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員

【議長・委員外議員】

【事務局】 河上局長

議 題

1 行政視察を終えて

(1) 委員派遣報告書の確認について 【別添報告書】

(2) 行政視察レポートの作成について

2 今後の取組について

3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[13 時 36 分 開議]

西田委員長

第8回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。村木委員は欠席と連絡を受けている。あとの委員はそろっているので早速始める。

1 行政視察を終えて（１）委員派遣報告書の確認について

（２）行政視察レポートの作成について

西田委員長

先般の行政視察は大変中身のあるものだったと思っている。皆の視察報告をもとに村木委員が作成した委員派遣報告書は、既に議長へ出した。それはまた確認してほしい。

もし、これだけは訴えたい、強調したい部分があれば今伺う。各委員の報告には大体目を通してもらっているだろうか。行政視察報告が終わり、行政視察レポートを12月定例会議最終日の全員協議会あたりで提示し、委員外議員へ情報共有したい。そのレポートはどのように作成するか。村木委員につくってもらった報告書をまとめて報告すればそれで終わりなのだが、特にこの部分は強調して加えてほしいという項目があれば伺う。

各委員から、自分の所感の中で特にここが言いたいという点、一番感じた点を発言してほしい。

岡本委員

久々の特別委員会視察だった。その経験を一般質問に反映させようとしている。ここで言ってしまったほうがよいのか。私の一般質問でしっかり伝えたい気持ちがあるので、ここで言ってしまおうと思いが半減しそうな気がする。

全体の話になると、コロナで動かなかったところ、よそに行ってみて、よそも頑張っていると実感したので、そういう点を伝えたい。例えば長崎で活動を拝見した際、よく頑張っていると思った。議会でもリモートという形でやってきているが、やはり現地に行って関係者と話し、いろいろ聞くことで思いも伝わる。現地に行くべきと思った。視察は大事である。

西田委員長

本当にそうである。ネットでも調べれば情報は幾らでも入るが、やはりまちづくりは思いがどれだけあって、どれだけの人があるかそこに集まるかが一番だろうから、そういう面では、やはり現地に行かないといけないと思うような視察をしなければいけない。

上野副委員長

先般の視察は大変勉強になり、参考になった。我々地域でもいろいろな資源があるが生かされていない部分と、人口減少などで、誰か知恵を貸してくれたら一緒にできる部分はかなりある気がした。浜田市も県立大学はあるし、旭には、まちづくりでいろいろ来てくれたりしているが、視察に行った先でも、学生が地域を盛

り上げて資源を生かすよう取り組んでいたもので、自分たちもぜひそこに力を入れていきたい。学生を含めた商品開発など面白かった。

柳楽委員

相浦未来まちパートナーズ事業では、直接自治体というのとは少し違う感じだったが、実際に浜田市でも県立大学という教育機関がある。共同で進められている部分もあるがなかなかそれが市民に広く伝わらない。連携は図られているが、そこがもう少し何か違った体制になると、もっといろいろな方に広くかかわっていただける取り組みになるのかなとすごく感じた。報告書にも書いたが、大学の教授から、これまで大学が子どもを育てて送り出す仕組みだったが、これからは大学も若者を地域に残す器であるという捉え方をしていけないといけないという話があった。全くそのとおりののかなど。今、県立大学等でも地域にしっかりかかわって取り組んでいこうという動きもされていると思うので、執行部がどううまく連携を図っていけるのか、というところは言っていけると思った。小城市もそうだが、市民を巻き込む仕掛けが大事だと思った。声をしっかり聞いて、それを執行部がうまくいろいろなところにつなげてあげる仕組みが大事だと感じた。

芦谷委員

自治区制度をやめて協働のまちづくりである。したがって市として全精力をつぎ込むべきと思っている。協働のまちづくりの精神をしっかり生かすために、まちづくり推進委員会を全地域につくる。そのためにもまちづくりセンターの機能をアップし、場合によっては職員も増員してそれを担うだけの体制をつくる。

浜田にある資源、大学もそうだし、JRの問題もあるし、高速道路もあるし、市役所以外の民間も含めた資源や団体と連携・協調する仕組みも必要である。何より一番問題なのは、協働のまちづくりを本当は市全体で進めればよいのだが、実質は企画だけの所管である。それ以外に、文化面もスポーツ面も防災面もしっかり参画する。それは言わないといけない。自治区制度のポスト事業である協働のまちづくりが、一所管部門に、公民館的なところだけにとどまっている。もっと市で力を入れないといけない。

村武委員

佐世保の相浦未来まちパートナーズに伺い、実際に行って話を聞くことで熱意を肌で感じられた。石田先生に浜田に来ていただき話を聞いた時点で、大変面白い取り組みをされているので行きたいと思った。今我々が協議している浜田市の協働のまちづくりの組織をどうするかとか、まちづくりセンター職員、コーディネーター、そういったことを話し合っている中でこの佐世保の視察がどのように生かせるかと思いながら行った。私が感じたのは今浜田市で協働のまちづくりを進めていく上で、まちづくりセンターが中心となって進めていると思うが、まちづくりセンター機能

を強化することも必要だとは思いますが、すぐには難しい。人材なども考えると。そういった意味で佐世保の県立大学との連携というか、県立大学の知識などを十分に生かした協働のまちづくりを考えてもよいのかと感じた。浜田には幸い県立大学もあるので、もう少し県立大学の先生やゼミや学生にまちづくりにかかわっていただく、何かそういったことができればよいと感じた。

川神委員

先般も東京へ行ったときに佐世保の田中議長と会った。次はぜひ浜田にという話があった。オンラインでは伝わってこない空気や、人と人がつながるには実際に会って時間を共有する作業が要るのだと痛感している。西田委員長が言われたが、今は情報取得ができるツールがさまざまあるので十分だが、それを使っている人間の顔、雰囲気は会って見ないとわからないので視察は有効なのだろうと改めて実感している。相浦もそうだが結局思いのある人間が思いのある研究機関の人間と出会って、そこで自分たちの地域に対してどう仕掛けていくかという話であった。まちづくりの原点はおそらくどこでもそのような感じで進むのだろう。やはり地域のキーマンをどうやってつくっていくかが一番大事なことなのだろう。簡単にいえば人材だが、なかなかできないけれど、その地域を誰が引っ張っていくのか、それをどうやってつくっていくのかと。今回視察へ行った先では、それなりによい出会いがあり、よい形で広がりを見せている。そのあたりを浜田でどのような仕掛けでキーマンの発掘をするのかは、行政だけでもできないし、議会だけでもできない。まちづくりセンター等々の住民自治の中だけでできるかということとそうでもない。この辺がどう絡んでいくかの大切さを今回学んだ気がする。

住民と役所と大学という教育機関、この三者の連携について、よいところはまねる。今やっていることをさらにグレードアップして、視察で学んだことから、少し刺激を与えていくことが、一つ上のランクのまちづくりにつながるのかなと思っている。結論は、現在のいろいろな資源を生かし、人を育て、発掘する。それを我々はどうやってするのか。一つの大きな後押しの視察になったのではないだろうか。

リビングラボについては、こういった方法はあるのだろう。が、実際に浜田市が商品開発したりいろいろなことをするときには、一部の特定の専門的ところが寄ってたかって、お歴々の方々と話をする。もっと市民が率直に参加しながら、ものづくりや地域づくりに参加するのは、結構よい形なのだろう。こういったものをどこに導入していくのが大事かと思う。こういった戦略をどこかで使ってみたらどうかと思っている。

西田委員長

私も副議長と似た考えだと思っていた。リビングラボへ行った

ときに小城市の行政に戦略課があって、それがたまたまりビングラボという手法を使った戦略ということなのだが、前向きな、戦略的な動きを行政がしているのが着目点だった。最終的には、協働のまちづくりは人づくりに尽きるところがあり、人づくりはどうしたらよいのか、人がつくろうとするものなのか、それとも自然につくられるものなのか。自然につくられるものならどういう環境にしたら人は育って自然につくられるのかを考えないといけない。特に佐世保へ行ったときなどは、あれだけいろいろなジャンルの方々がそれぞれ違う活動をされていて、それぞれ熱い思いを持っている方々が集まっている。それはすごく参考になっている。浜田においてもいろいろな面で置き換えられる部分はたくさんあった。そういう面では非常に参考にはなった。とにかく人づくりかと思っている。

村木委員はここに書いておられるので。今、委員から所感を述べてもらった。

岡本委員

視察関係の報告をするのはこのたびからか。前回までやっていたか。あまり記憶がないのだが。

河上局長

議会改革がされたのが第1号である。

岡本委員

ほかはないか。

河上局長

はい。現地に行ったのは初めて。

岡本委員

その報告を口頭とするのか。ある程度資料があってやるのか。

西田委員長

これは、議会改革で決まったのだが、いろいろな委員会で視察されて、これは全議員で共有したいという視察があったときは、全員協議会でほかの議員にも報告して、少しでも内容を共有したいということから、視察報告レポートとなった。協議で正式にすることになった。本当は、この視察だけは報告したほうがよいとか、全部しなければいけないのかと思ったところもあったが、最終的には皆レポートとして報告する形になっている。報告の仕方に決まりはないと私は思っている。資料を使って、より細かく報告する視察があってもよいし、中には口頭説明だけで済ます場合も、それはそれでよいと思う。あまりたくさん時間を取る必要もないし、内容がわかればそれでよいと思っている。

第1回目のときは議会改革推進特別委員会が全員協議会の際に報告した。そのときは私が発表した。全員協議会でいろいろ協議した最後に、また視察報告をたくさん聞くとなると大変なので、そういう意味では内容はシンプルにわかりやすい報告のほうがよいと思っている。

芦谷委員

会派内でパワーポイントにするという話があった。私はそこまで手間をかけず、これだけ立派な報告書があるので、もしするならこれを代表者がポイントの部分だけ流すようにしないと。今の

岡本委員

市議会は議員の仕事をつくってくる感じがする。それはよいが、もうあるのだから。そのかわり議員も感想や報告はきちんと書くことにして。仕事をつくるのはあまり賛成できない。これについては委員長なり代表が説明してほしい。

我々は協働のまちづくりの委員会なので、そのもとに視察へ行ったわけで。視察先で自分たちが今後、当委員会がどういう方向へ進むか、そのための試金石になったという、つながる報告だけでよいと思う。それを細かくやっても、我々行ったものは内容がよくわかるが、ほかの人にはわからない話になるだろうし。我々がこれから目指すものための視察であるという報告にまとめていただいたほうがよい。

西田委員長

芦谷委員と岡本委員の言われることは重々承知した。私も同感である。レポートは全員で共有したいことは熱を入れて報告してもよいが、岡本委員が言われるように、これは我々協働のまちづくり推進特別委員会の委員として行ったものなので、皆にあまり深く報告してもぴんとこないかもしれない。その辺は配慮しながらできるだけシンプルに報告したい。

視察レポートについてはどのようにまとめようか。皆も所感を出しているし村木委員もまとめている。これを、先ほどいただいた意見も含めてできるだけシンプルにまとめ、12月定例会議の最終日の全員協議会で私から報告する。この件については以上でよろしいか。

(「はい」という声あり)

河上局長

完成させたレポートは、皆に発表する前に、配信する形で了解を取るか、それとも委員会をもう1回開くか。

西田委員長

委員会は開かず配信だけさせてもらう。

2 今後の取組について

西田委員長

最初にどういうところからスタートするか、現場の意見を聞くことから始めようということで、各まちづくりセンターのヒアリングを実施した。次にまちづくりコーディネーターとの意見交換会を実施した。先般10月には執行部との意見交換をして、今回行政視察で長崎・佐賀に行かせていただいた。この行政視察を含めて、かなり協働のまちづくりについて肌で感じた部分がある。これをどのような取り組みに持っていこうか。もし具体的な意見があれば聞きたい。

芦谷委員

まちづくりセンターやコーディネーターや執行部との話し合いと、今回の視察も含めて、大体方向性や課題は出尽くしたと思う。できれば各委員にまとめていただき、提言というか。我々は議会なのだから執行部にしっかり提言したり宿題を与えたりして、と

にかく前に進める、能動的な提言をやったらと思う。各委員の思いを体系化しながら提言としてまとめて、できれば1月中か、3月の施政方針までにと考えた。

西田委員長

そろそろ提言を見据えて、今年度中には提言をとということで。委員それぞれの提言についての考えはどうだろうか。

岡本委員

それが集大成になるかどうかかわからないが、一旦ここまでやってきたので、自分の取り組んだことを含めて、提言になるかはわからないが、まとめることについては賛成したい。

西田委員長

提言するとなるとある程度形がまとまった具体的意見をまとめることになる。そこまでいければいきたい。いけなくてもかなり近い形で中間報告という形もあるが。

川神委員

これで総括の提言はなかなか難しい。この時点において中間的な指摘ということで意見集約して執行部に投げかけるのは効果があると思っている。今までも結構、割と短い時間の中でヒアリングしたり出かけていっての調査もしたりしている。課題をもう一回体系立てて集約して、特に重点的に指摘しなければならない課題に対して、この委員会で、こういったアプローチはどうかなど提案できることを議論しながら、課題解決のために中間的な指摘をするのはよいのでは。

西田委員長

積極的に行けば何とか年度内に提言まで持っていきたいという声と、少し手前で執行部に対して何か効果があるような提言をすることはどうかとの意見がある。今日の皆の意見をまとめると、中間報告的なことで何か少しでも効果があるようなものはできそうな気はするが、提言まではあと少しどうかなと思うところがある。皆に具体的なものを出してもらって効果的な提言になればそれはそれでまた提言させてもらおうと思うがいかがか。

村武委員

今まで出たことを再度まとめて、川神委員が言われたように課題を洗い出す。それを出して、私の中ではまだ、課題はあるが提言するためにはどうしたらよいか、提言の内容を考えないといけないがそこまでは行き着いてない。なので課題を洗い出して、そこからこれを解決するためにはどうしたらよいか、もしかしたらもう一回調査研究しないといけないかもしれない。1回洗い出してまとめるのがよいとは感じている。

川神委員

最終形が出ればそれはよいのだろうが、往々にして体裁を整えた提言はあまり意味がない。課題を幾らか絞って、今なら人づくりが出たり、大学との連携が出たり、町内会や自治会でどういことが課題でそれをどう解決するか、いろいろな問題があるがそれをある程度絞ってここで議論して、体裁のある提言ではなく、こうしたらよいのではというここの総意まで議論して、行き着いたものが、胸を張って提言なり提案なりになると思う。エンドラ

柳楽委員

インを決めてとりあえず出してみるか、だったらやめたほうがよい。委員会内での中間的考えでも出てくれば、それはきちんと出していかないといけない。

これまでまちづくりセンター、コーディネーターの方々と意見交換したり、視察も行ったり、それぞれ取り組んだ中で現時点で各委員が、どういった課題があるのでこういった対策が必要ではないかと考えるところを一旦出してもらってもよいかと思う。

西田委員長

それは提言に結びつくか、執行部に対して何か効果的な中間報告になるか、形はわからないがこれまでやってきたことを各委員に出していただき、その中で提言に結びつくのではというものがあれば提言の方向性、ということか。

上野副委員長

柳楽委員が言われたように、今まで取り組んできたことの中からそれぞれが、先々の提言に結びつけるように書き出してもらい、それを中間報告として執行部へ言う形かは別として、皆に出してもらうのがよい。

西田委員長

今日結論ではないので、いろいろな思い、考えを出していただくのが大事かと思う。

岡本委員

皆の意見を聞くと、この辺で1回まとめてみようという感触に受け取れた。冒頭に芦谷委員が言ったように、12月は無理にしても1月あたりで皆に目標を聞いて、レポートのような形でまとめたらどうかという提案に私も賛成したつもりなのだが。そういうことであれば一つの目標で1月にはそうしようということで決まるのでは。

西田委員長

提言まで行くか、そこまで行かず中間報告になるか、今はその間だと感じている。今まで皆それぞれやってきたヒアリング、意見交換、視察などを含めて、今日出た皆の意見も含めて、現時点で我々が積んできた当委員会のキャリアをどのようにまとめていくか。執行部に訴えたい、言いたいことを、各委員がまとめて、それをもとに協議し、それが提言に結びつくか中間報告になるかも含め、またさらに委員内で協議したい。よろしいか。

(「異議なし」という声あり)

今までのことを前向きにまとめていただき、執行部に対して自分ならこういう提言をしたいという考えをまとめていただき、それをもとに皆とまた協議したい。それでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

それをまとめる期日はいつにするか。次の委員会予定日を決定しておいて、その少し前までに出していただく、そのように進めたい。

《 以下、日程調整 》

1月13日金曜日、午後1時30分からということによろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではそれで決定する。村木委員にはそのように連絡する。皆のまとめた意見を提出していただくのは、その何日前にしようか。

《 以下、日程調整 》

では1月10日火曜日の夕方5時までに提出をお願いします。

河上局長

では1月10日の5時までに、委員それぞれが今までの活動から考える課題や対策など、意見を出してもらおう。様式はフリーでよいか。そのほうがかえって言いやすいか。

西田委員長

ええ。

(「枠があったほうがよい」という声あり)

河上局長

ではこちらで項目立てなどはあまりせず、名前と罫線を引いたようなものを送る。

西田委員長

中身はあくまでも、やってきたことの考えであり、執行部へ提言するような言い方になるのか。とにかく前向きな意見を書いてもらえたらうれしい。

河上局長

今まで皆が出された意見や、それを取りまとめたようなものは全部特別委員会のフォルダの日付ごとに資料として入れてあるので、参考にしてもらえたらと思う。何か入れてない資料などがあれば言っただけければ準備する。

西田委員長

では1月10日5時までにそれぞれ提出をお願いします。議題2については以上でよろしいか。

(「はい」という声あり)

3 その他

西田委員長

皆からその他で何かあるか。

(「なし」という声あり)

議題が全て終了したので、以上をもって第8回協働のまちづくり推進特別委員会を終了する。

[14 時 27 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西田清久